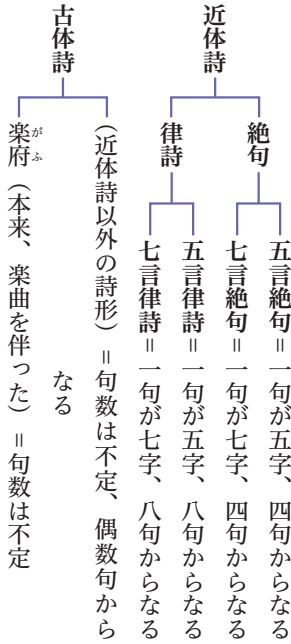


近体詩の構成

漢詩は、音の響きが命である。漢字がもつ形・音・意味のはたらきを存分にいかした文学の様式である。漢字のもつさまざまな抑揚を並べ、聞いて心地よい音の流れにした。その完成した形が**絶句**と**律詩**からなる、いわゆる**近体詩**である。

絶句は、一首が四句からなり、一句が五文字からなるものを**五言絶句**、七文字からなるものを**七言絶句**と呼ぶ。律詩は、一首が八句からなり、一句が五文字からなるものを**五言律詩**、七文字からなるものを**七言律詩**と呼ぶ。それ以外の詩形は、**便宜上古诗（古詩）**と呼ぶ。

漢詩の主な詩形は、次のようになる。



絶句や律詩には、次の三つの約束がある。

1 字数が決まっていること。|| 定型

2 偶数句の末尾に同じ響きをもつ韻字を置くこと。|| 押韻
七言詩は、第一句にも押韻する。

3 一句の響きに音の抑揚（高低）があること。|| 平仄
平仄は、訓読だけではわかりにくい。

次に、漢詩の構成を具体的に見てみよう。漢詩中の句は、五言の場合は二字＋三字、七言の場合は二字＋二字＋三字という構成となることが多い。

絶句

王維の「送元二使安西」は、七言絶句である。

渭城朝雨浥轻塵、起句||歌い起し
(韻字||塵)

客舍青青柳色新、承句||場面を受け継ぐ
(韻字||新)

勸君更盡一杯酒、転句||場面の転換

西出陽關無故人、結句||詩を結び終える
(韻字||人)

律詩

杜甫の「春望」は、五言律詩である。

国破山河在
城春草木深

首聯 || 歌い起こし (韻字 || 深)

感時花濺淚
恨別鳥驚心

頷聯 || 場面を受け継ぐ (韻字 || 心)
*三句目と四句目で対句

烽火連三月

頸聯 || 場面・発想の転換 (韻字 || 金)
*五句目と六句目で対句

家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

尾聯 || 詩を結び終える (韻字 || 簪)

例えば、王維「送元二使安西」は七言詩であるので、「渭城+朝雨+浥輕塵」という構成となっており、杜甫「春望」は五言詩であるので、「国破+山河在」という構成となっている。そのため漢詩を読解するうえで、古くより「二、三

に読む」ことが重要なポイントとされてきたのである。

漢詩は、二句でひとまとまりになる。律詩ではそのまとまりを「聯」と呼び、第一句と第二句を首聯(起聯)、第三句と第四句を頷聯(前聯)、第五句と第六句を頸聯(後聯)、第七句と第八句を尾聯(結聯)と呼ぶ。また、中間の頷聯と頸聯に対句を構成する必要がある。対句とは、並ぶ二つの句が、文法的かつ修辭的に対応するものをいい、言いたい事柄を多角的に捉える表現方法である。

近体詩の表現手法は日本にも伝わり、日本の文人もまた近体詩のルールに従って絶句や律詩を作った。日本人が唐代の詩を学ぶために用いた教科書的な選集に、『三体詩』や『唐詩選』がある。

『三体詩』は中世の禅林において盛んに読まれ始めて以来、近代に至るまで愛読された。中唐以降の詩人の作品を多く載せているため、盛唐を代表する詩人である李白・杜甫の詩は収録していない。一方、『唐詩選』は江戸時代中期以降に流行し、唐詩を学ぶための代表的な選集となったが、これは盛唐までの詩人が中心となっているため、中唐の白居易や晩唐の杜牧の詩を収めていないという特徴がある。